

Incidence of comprehensive hospitalization due to infection, cardiovascular disease, fractures, and malignancies in patients with rheumatoid arthritis

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 杉本, 直樹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032096

主論文の要旨

Incidence of comprehensive hospitalization due to infection, cardiovascular disease, fractures, and malignancies in patients with rheumatoid arthritis

(関節リウマチ患者における感染症、心血管障害、骨折、悪性腫瘍を含めた合併症による入院についての包括的な検討)

東京女子医科大学附属膠原病リウマチ痛風センター

杉本 直樹 (指導: 山中 寿 教授)

Rheumatol Int. 2017 Sep 7. doi: 10.1007/s00296-017-3811-5.

[Epub ahead of print]

【要 旨】

関節リウマチ (RA) に伴う多彩な合併症は、短期的・長期的な疾患の経過や予後に強く影響することが報告されている。本研究では RA 患者における合併症について、入院という観点から包括的な検討を行った。

対象は第 19 回 IORRA 調査 (2009 年 10 月施行) に登録された RA 患者で、1 年間前向きに観察し、医療記録で裏付けがある合併症による入院について、全体および原因別での頻度を解析した。また感染症による入院について、部位別頻度や危険因子についての解析を行った。

結果は RA 患者 5,519 人 (5,336.5 人年) の観察において、435 件の入院 (8.15 件/100 人年) がみられた。原因別では感染症が最多で (1.52 件/100 人年)、悪性腫瘍、心血管障害、骨折、関節外症状と合わせて半分強を占めた (53.0%)。感染症の部位別で最多は呼吸器系感染症 (0.77 件/100 人年) であり、有意な危険因子は年齢、血清アルブミン低値、ステロイド使用であった。

本研究で RA 患者での様々な合併症による入院の実態が示された。ステロイド使用は感染症のみならず骨折のリスクでもあり、日常診療において十分に配慮していく必要がある。本研究の結果は、RA 治療の今後の改善を評価していくうえでの基盤になるデータとなる。